

洲本市の 人口動向分析

○人口動向分析についての基本的考え方	1
1. 総人口の長期推移	1
2. 年齢別人口動向	3
① 人口構成比	3
3. 自然増減・社会増減による人口動向	5
① 自然動態	5
② 社会動態	5
4. 要因別分析	6
① 合計特殊出生率	6
② 死亡の状況	7
③ 転入・転出の状況	8
5. その他の分析	9
① 産業別就業者数	9

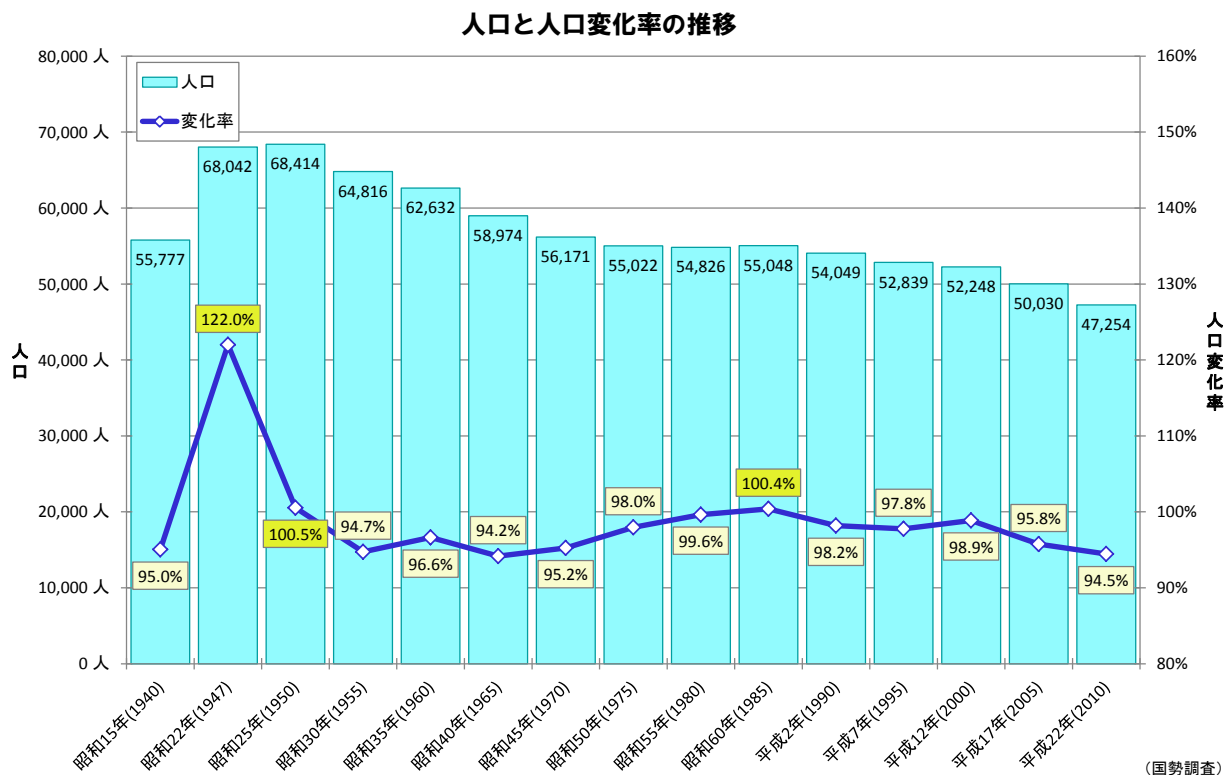
○人口動向分析についての基本的考え方

○過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、時系列による人口動向や年齢階級別の人口移動分析を行います。

1. 総人口の長期推移

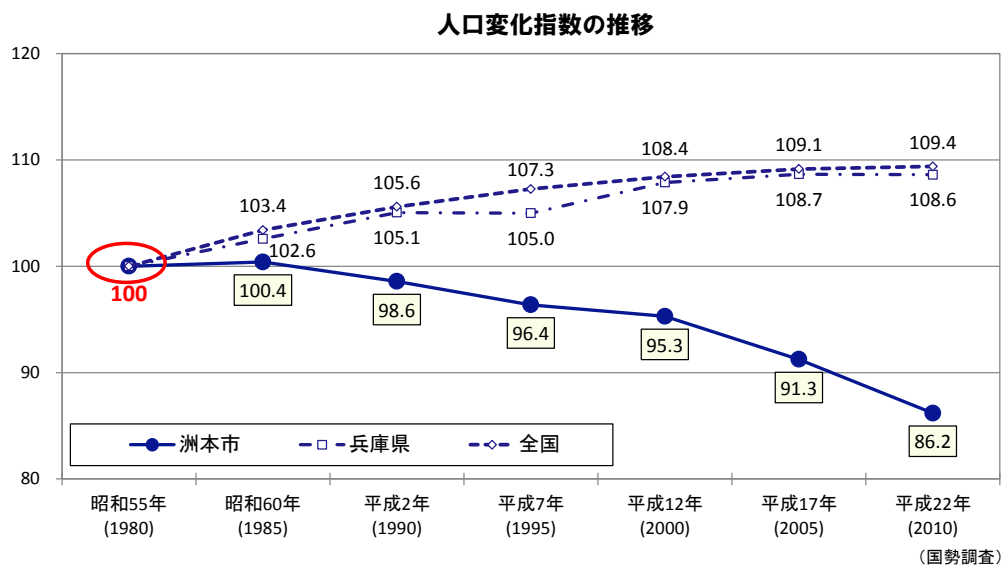
○洲本市では、他の多くの自治体と同様、戦後の復員やベビーブームに伴って昭和 22 年に人口が大きく増加し、昭和 15 年の 55,777 人から 68,042 人となっています。

○昭和 25 年に 68,414 人とピークとなった後は減少傾向となり、昭和 50～60 年の 10 年間は 55,000 人前後で安定的に推移しましたが、その後は再び減少傾向で推移し、平成 22 年には 47,254 人となっています。



昭和 55 年の人口を 100 とした場合の変化指数の推移を全国・兵庫県・洲本市で比較すると、全国では平成 22 年まで一貫して増加、また県では平成 7 年に阪神淡路大震災の影響等により一時的に減少しているものの、平成 17 年まで増加となっています。

これに対し、洲本市では昭和 60 年の 100.4 をピークに減少傾向で推移しており、特に平成 12 年以降は減少幅が大きくなっています。

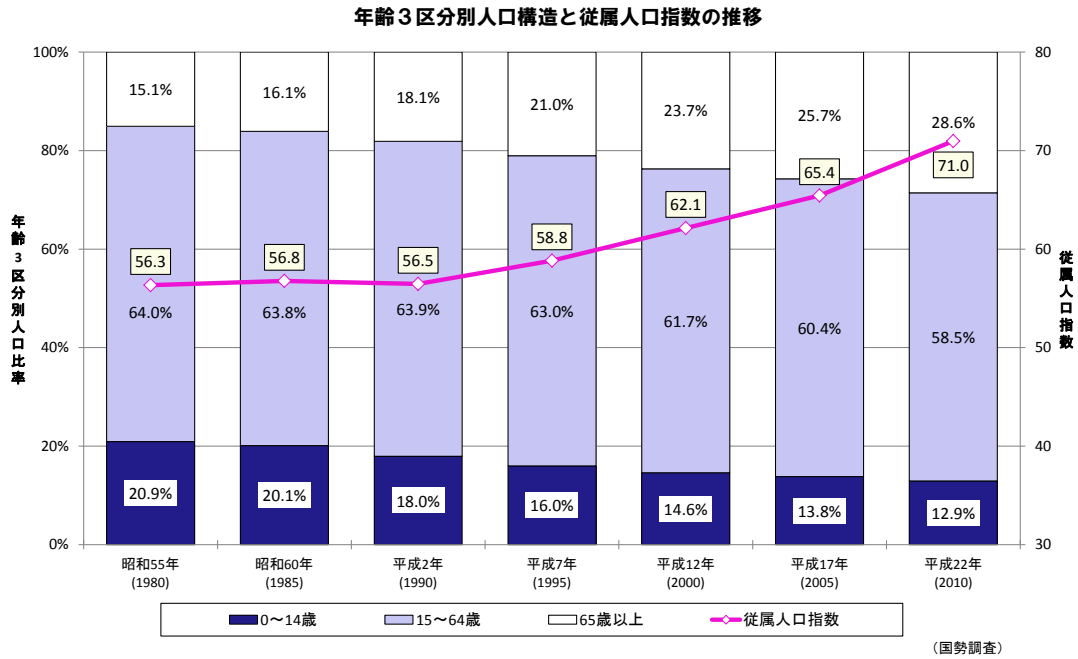


2. 年齢別人口動向

① 人口構成比

年齢3区分別の人口構造の推移についてみると、老年人口が昭和55年の15.1%から平成22年には28.6%と30年間で13.5ポイント増加しているのに対し、年少人口は20.9%から12.9%へと8.0ポイント減少しており、少子高齢化が進行していることがわかります。

従属人口指数は、昭和55年の56.3から平成22年には71.0まで増加しています。



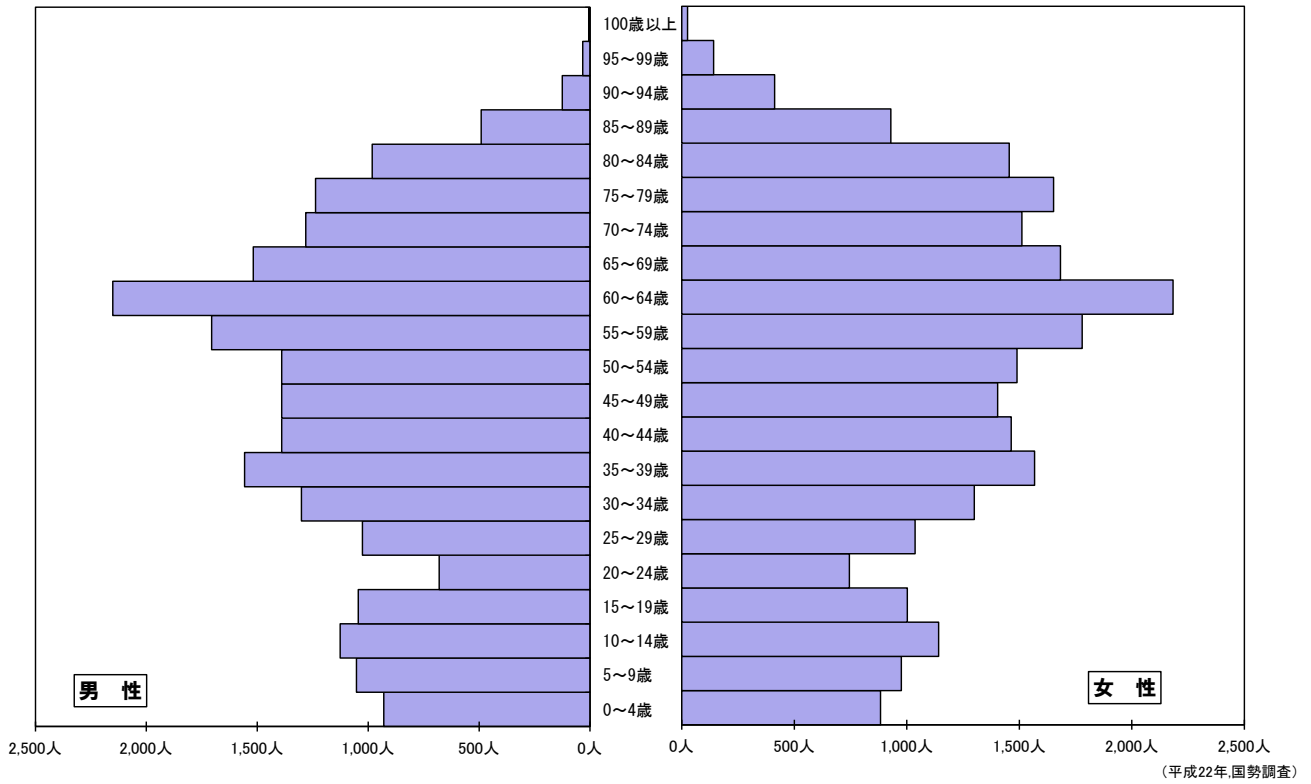
従属人口指数とは、生産年齢人口（15～64歳）に対する年少人口（0～14歳）、老年人口（65歳以上）の合計の比率で、働き手である生産年齢人口100人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すものです。

		昭和55年 (1980)	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	
人口	年少人口	0～4歳	3,625	3,198	2,784	2,441	2,410	2,225	1,813
		5～9歳	4,144	3,685	3,230	2,808	2,423	2,354	2,029
		10～14歳	3,716	4,180	3,693	3,205	2,799	2,344	2,267
		計	11,485	11,063	9,707	8,454	7,632	6,923	6,109
	生産年齢人口	15～19歳	3,282	3,423	3,553	3,049	2,672	2,297	2,047
		20～24歳	2,475	2,446	2,543	2,665	2,273	1,854	1,425
		25～29歳	3,535	2,990	2,911	2,933	3,303	2,634	2,063
		30～34歳	4,609	3,638	3,019	3,003	3,064	3,254	2,601
		35～39歳	3,605	4,679	3,691	3,062	3,077	2,941	3,125
		40～44歳	3,325	3,561	4,615	3,698	3,043	2,871	2,854
		45～49歳	3,993	3,280	3,482	4,570	3,685	3,009	2,794
		50～64歳	10,246	11,099	10,730	10,288	11,110	11,380	10,699
	計	35,070	35,116	34,544	33,268	32,227	30,240	27,608	
老年人口	65～74歳	5,214	5,127	5,432	6,406	6,808	6,248	5,993	
	75歳以上	3,057	3,742	4,364	4,711	5,581	6,619	7,491	
	計	8,271	8,869	9,796	11,117	12,389	12,867	13,484	
年齢不詳		0	0	2	0	0	0	53	
総人口		54,826	55,048	54,049	52,839	52,248	50,030	47,254	
構成比	年少人口	0～14歳	20.9%	20.1%	18.0%	16.0%	14.6%	13.8%	12.9%
	生産年齢人口	15～64歳	64.0%	63.8%	63.9%	63.0%	61.7%	60.4%	58.5%
	老年人口	65歳以上	15.1%	16.1%	18.1%	21.0%	23.7%	25.7%	28.6%

(国勢調査)

平成 22 年の洲本市の 5 歳階級別の人口構造をみると、団塊の世代を含む 60～64 歳の人口が最も多く、これより若い年齢層については人口規模が縮小していることがわかります。

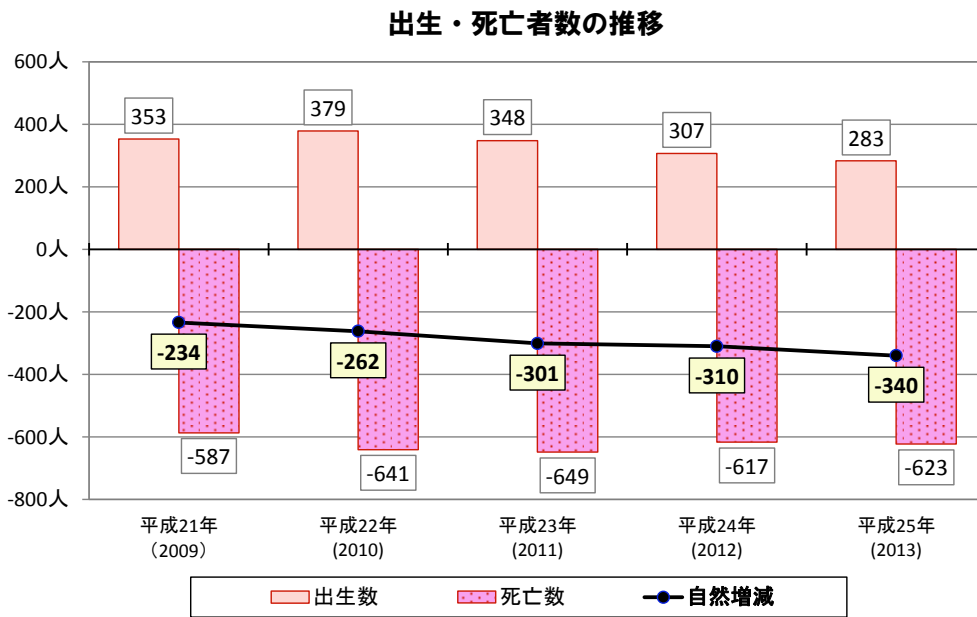
洲本市の 5 歳階級別人口構造



3. 自然増減・社会増減による人口動向

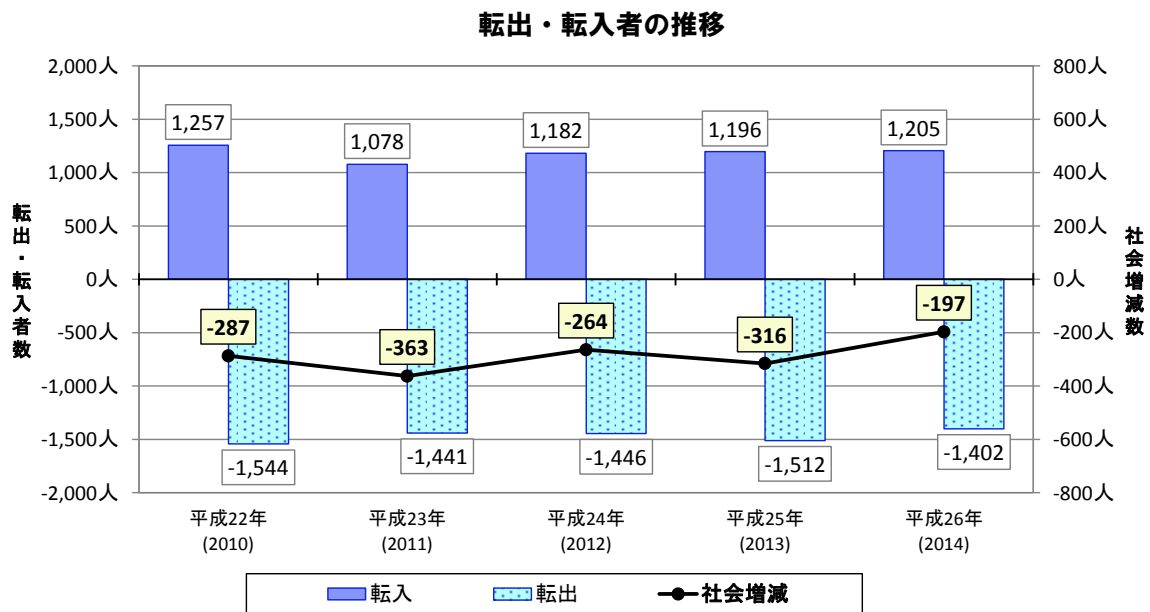
① 自然動態

平成 21～25 年の 5 年間の出生・死亡者数をみると、出生数は年間 300 人程度ですが減少傾向、また、死亡数は年間 600 人程度であり、その結果として年間 300 人以上の自然減となっています。



② 社会動態

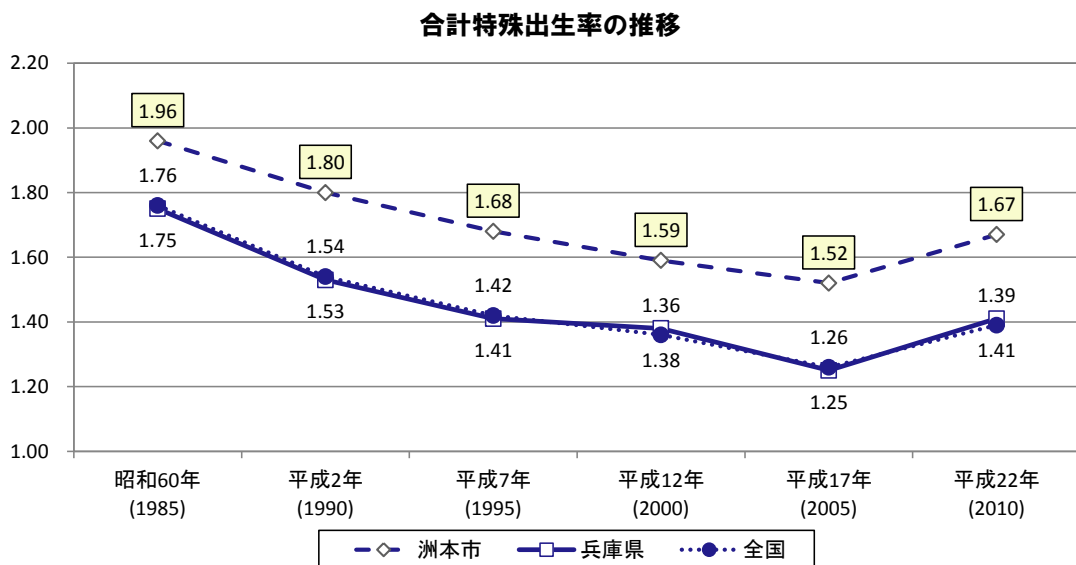
平成 22～26 年の 5 年間の転入・転出者数をみると、転入数は年間 1,200 人程度、転出数は 1,400～1,500 人程度で推移しており、その結果として年間 200～300 人程度の社会減となっています。



4. 要因別分析

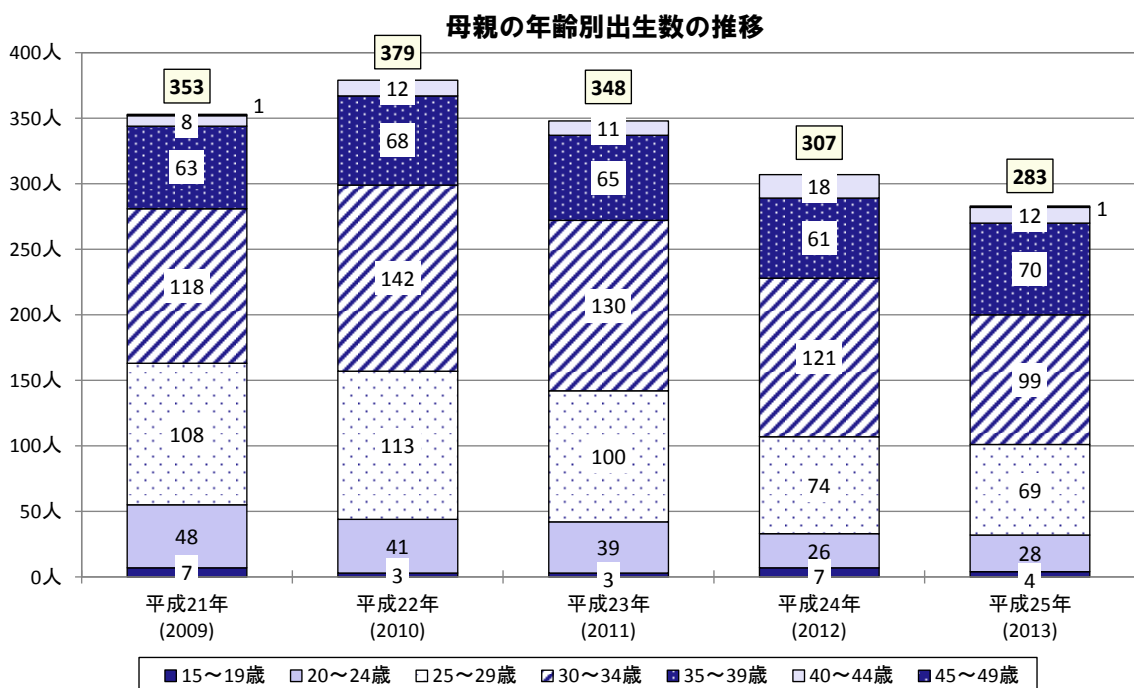
① 合計特殊出生率

洲本市の合計特殊出生率は、昭和60年から平成17年にかけて減少傾向にあり、その後平成22年にかけて増加しています。全国・兵庫県においても同様の傾向が見られますが、洲本市は全国や兵庫県に比べ、高い水準での推移となっています。



※出生数(人口動態調査)、合計特殊出生率(兵庫県情報事務センター)

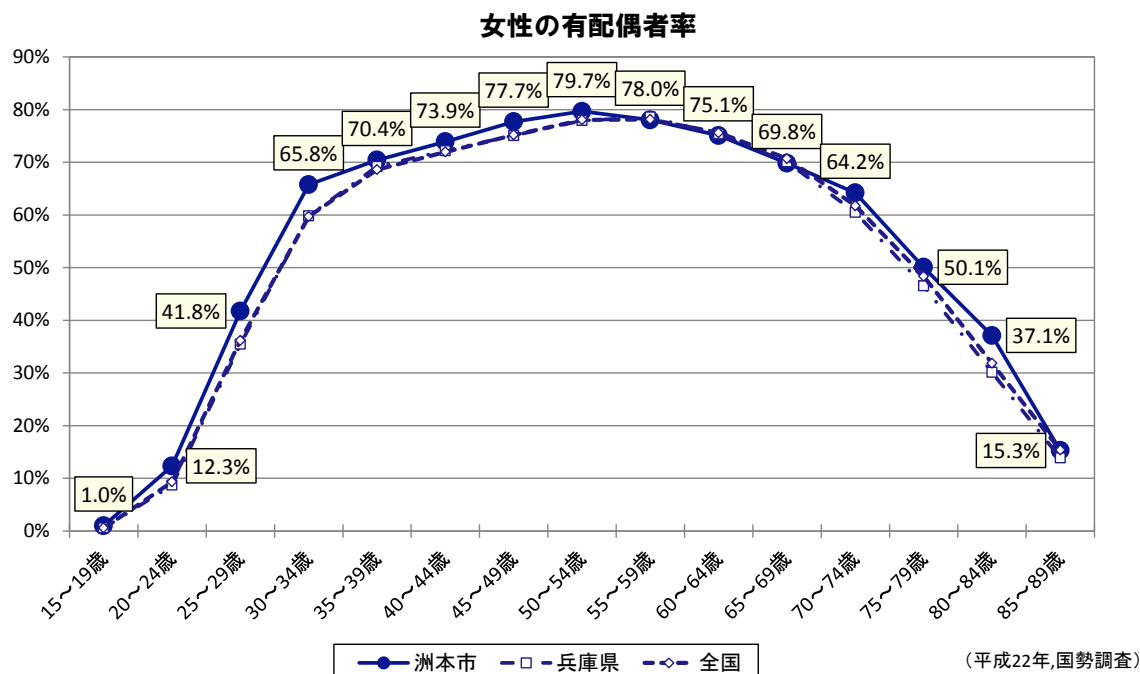
母親の年齢別出生数の推移をみると、平成22年をピークに減少し、平成25年は283人となっています。平成24年から25年にかけて、30代前半の出生数が大幅に減少しています。



(人口動態調査)

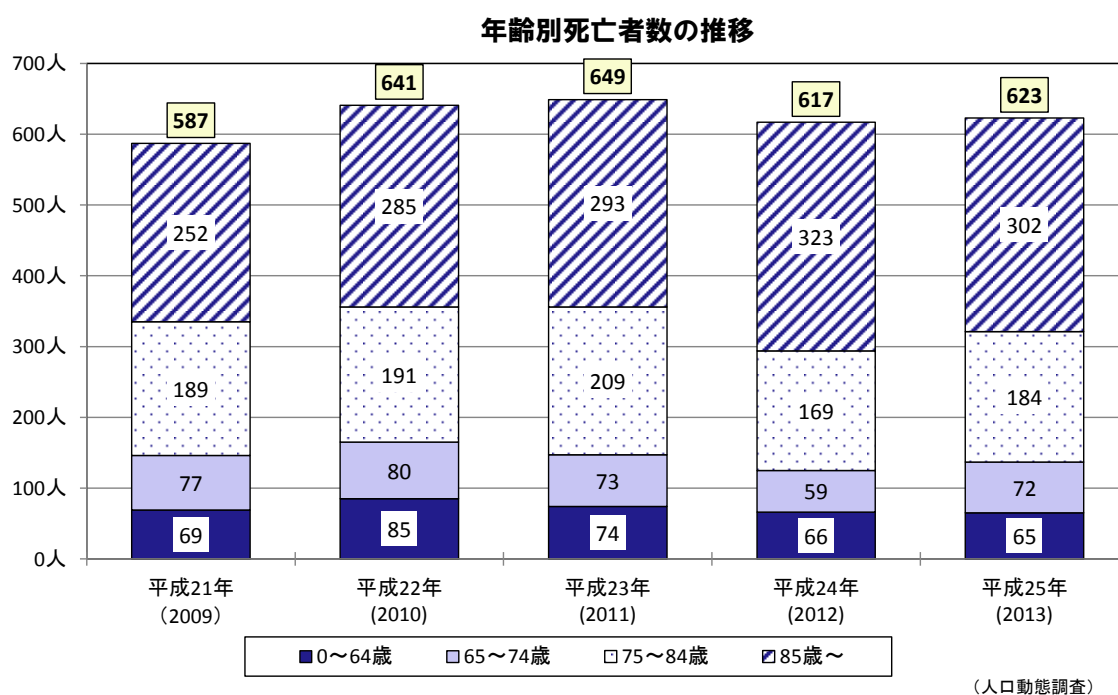
平成 22 年の女性の有配偶率を全国・兵庫県・洲本市で比較すると、55～69 歳を除いた年代で、全国・兵庫県に比べて洲本市の有配偶率が高くなっています。

我が国では出産の多くが嫡出子であることから、“20～29 歳”の女性の有配偶率が特に高いことは、少子化対策を考える上での強みと言えそうです。



② 死亡の状況

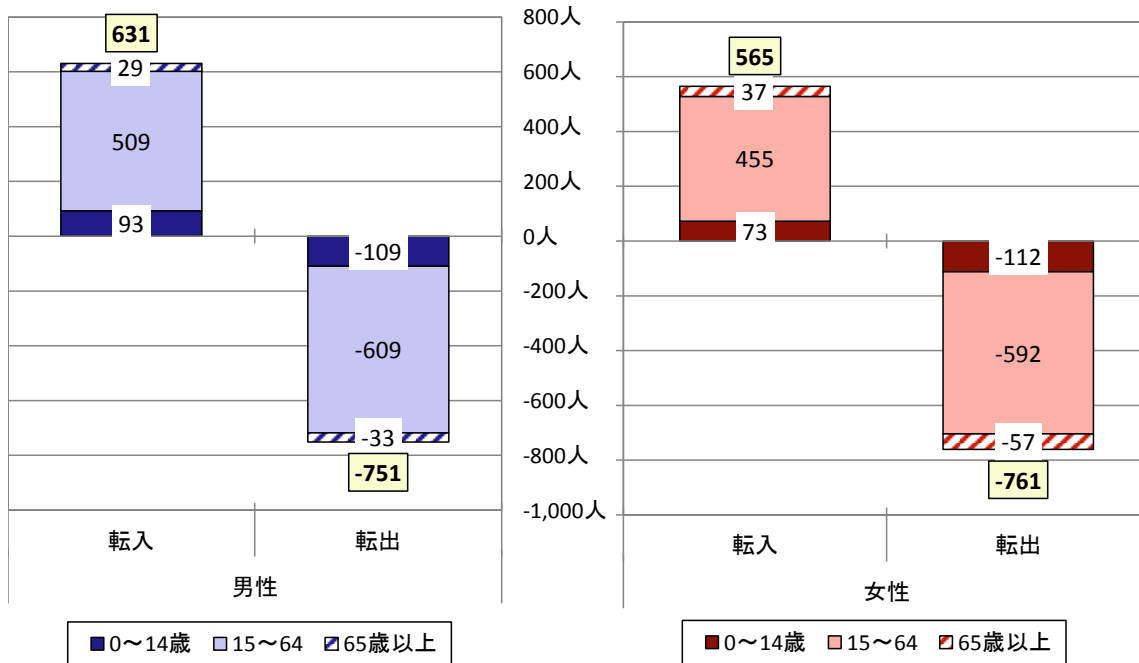
平成 21～25 年の 5 年間の年齢別死亡者数をみると、各年 600 人前後の死亡者の半数近くを 85 歳以上が占めています。



③ 転入・転出の状況

平成25年の転入・転出の状況を性別・年齢3区分別にみると、男女ともにすべての年代で、転出が転入を上回っています。

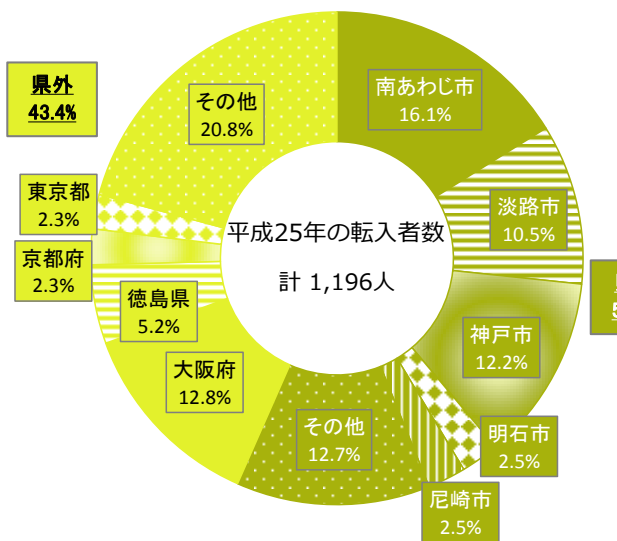
性別・年齢3区分別の転入・転出の状況



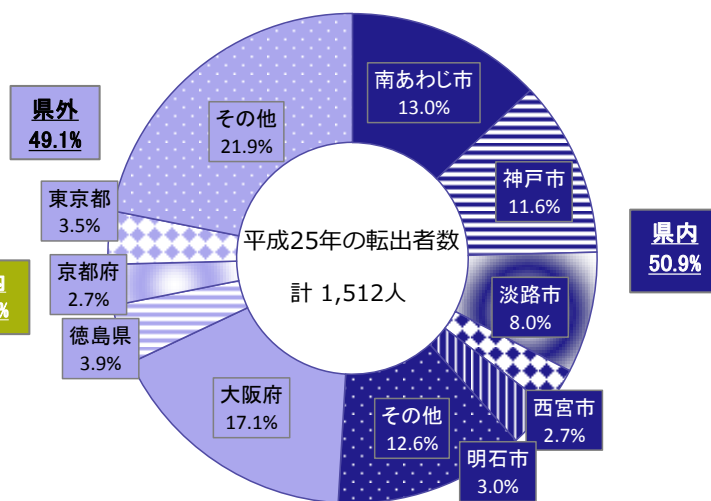
(住民基本台帳人口移動報告)

転入・転出の状況を居住地別にみると、転入は県内が56.5%で、南あわじ市が最も多く全体の16.1%、転出も県内が50.9%を占め、同じく南あわじ市が13.0%で最も多くなっています。県外では、転入・転出ともに大阪府が最も多くなっています。

転入の状況



転出の状況



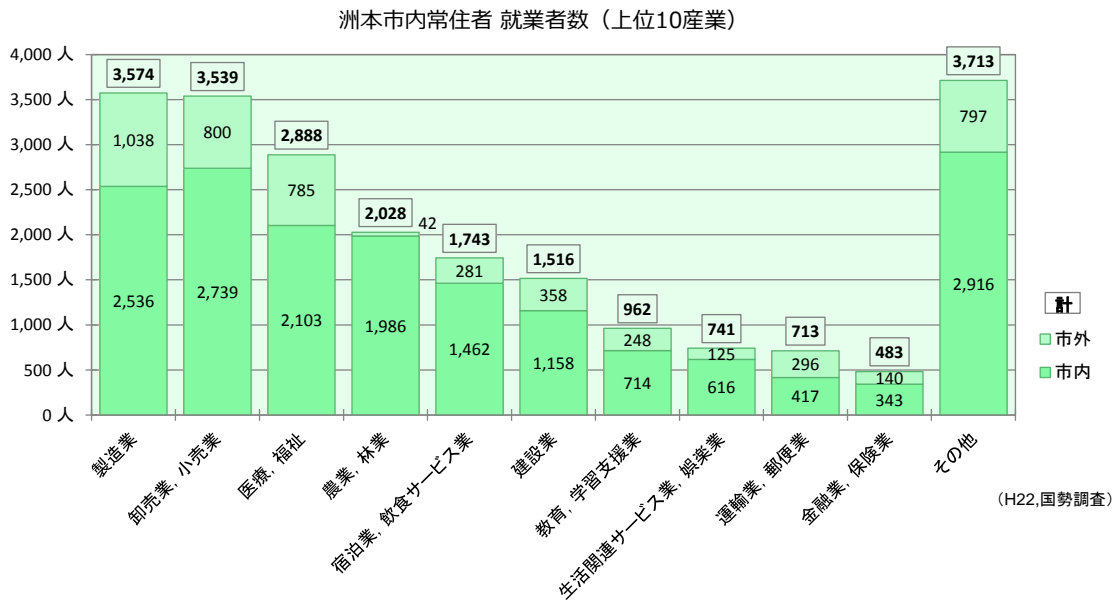
(住民基本台帳人口移動報告)

(住民基本台帳人口移動報告)

5. その他の分析

① 産業別就業者数

平成 22 年の洲本市常住の就業者について産業分類別にみると、製造業が 3,574 人と最も多く、そのうち 2,536 人 (71.0%) が市内で就業しています。次いで、卸売業・小売業が 3,539 人で、そのうち 2,739 人 (77.4%) が市内で就業している状況です。



また、平成 22 年の洲本市内従業者数について産業分類別にみると、製造業が 4,054 人と最も多く、そのうち他市町村常住者が 1,518 人 (37.4%) を占めています。次いで、卸売業・小売業が 3,627 人で、そのうち他市町村常住の就業者が 888 人 (24.5%) となっています。

